

上場会社名 株式会社日清製粉グループ本社

上場取引所 東大
本社所在地 都道府県
東京都

コード番号 2002

(URL <http://www.nisshin.com>)

代 表 者 役職名 取締役社長
氏 名 正田 修

問合せ先責任者 役職名 執行役員 総務本部広報グループ長
氏 名 森 裕行

(TEL: (03) - 5282 6650)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における : 無

認識の方法との相違の有無

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有

連結 (新規) 9社 (除外) 0社 持分法 (新規) 2社 (除外) 1社

当社が、従来持分法適用関連会社であったオリエンタル酵母工業(株)の株式を追加取得した結果、同社が新たに当社の連結子会社となったことに伴う異動であります。

2. 平成 16年 3月期第1四半期の業績概況 (平成15年4月1日 ~ 平成15年6月30日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売 上 高		経 常 利 益	
	百万円	%	百万円	%
16年 3月期第1 四半期	115,348	-	5,456	-
15年 3月期第1 四半期	-	-	-	-
(参考) 15年 3月期	402,313		19,937	

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当社は本年4月に持分法適用関連会社でありましたオリエンタル酵母工業(株)の株式を追加取得し、連結子会社といたしました。子会社化により製粉、食品等関連事業との更なる緊密な連携が可能となり、大きなシナジー効果を実現していきます。

当社関連の業界におきましては、長期化する消費の低迷に伴い販売競争が激しさを増す中にありましたが、当社の製粉事業は取引先とのリレーションシップ・マーケティングの一層の推進により出荷伸張を図りました。食品事業では上記の事業体制の見直しに加えて、今春発売の新製品は順調に出荷を伸ばしました。また飼料事業におきましても着実な営業活動を実施しました。以上の結果、売上高は1,153億48百万円となりました。

収益面でも市場環境は極めて厳しい状況下にありましたが、各事業においてマーケットニーズに応えた新製品開発・投入と積極的な販売促進施策を推進するとともに、グループ全体として取り組んできましたコストダウン施策の効果が引き続き実現し、経常利益54億56百万円と順調に推移しました。

尚、配合飼料事業の競争力強化と更なる発展を目指して、本年10月1日を期日とする日清飼料(株)の丸紅飼料(株)との経営統合に関する契約書を締結し、統合に向けた作業を開始いたしております。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

上記のようにオリエンタル酵母工業(株)を連結子会社といたしました。同社(連結)の当期の業績見込みは以下のとおりであります。

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中 間 期	29,300	1,510	780
通 期	59,100	2,950	1,500

3. 平成 16年 3月期の連結業績予想 (平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

	売 上 高			経 常 利 益			当 期 純 利 益		
	業績予想	前年実績	前年比	業績予想	前年実績	前年比	業績予想	前年実績	前年比
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
中 間 期	235,000	201,768	+ 33,232	9,800	9,040	+ 760	5,100	5,241	141
通 期	443,000	402,313	+ 40,687	22,200	19,937	+ 2,263	11,200	10,575	+ 625

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 47円54銭

[業績予想に関する定性的情報等]

業績は当初予想通り順調に推移しており、業績予想の変更はありません。

(注)上記の予想は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値等を確認したり、保証するものではありません。

平成15年7月28日

日清製粉グループ 第1四半期連結決算

第1四半期は経常利益54億56百万円と順調に推移。通期業績予想も当初予想通りで売上高、経常利益とも過去最高を更新の見込み。

株式会社日清製粉グループ本社（社長 正田 修）の平成16年3月期第1四半期は、売上高1,153億48百万円、経常利益54億56百万円と順調に推移しました。各事業別の業績は次の通りであります。本年4月に連結子会社化したオリエンタル酵母工業(株)は食品・バイオ部門とも好調に推移しました。また、健康食品事業においては、健康食品素材として注目されているコエンザイムQ10を中心に売上を伸ばし、配合飼料・ペットフード事業でも積極的な拡販施策の結果、業績は順調に推移しました。主力の製粉事業、加工食品事業及びメッシュクロスなどその他事業においても、市場環境は極めて厳しい状況下にありましたが、概ね当初見通し並みの業績となりました。

通期業績予想は、当初予想通り各事業において出荷伸張を図るとともに、引き続き各事業におけるコストダウンを実現すること等で、売上高は4,430億円（前期差+407億円、前期比+10.1%）、経常利益は222億円（前期差+23億円、前期比+11.4%）と過去最高を更新し、当期純利益も112億円（前期差+6億円、前期比+5.9%）と増益となる見込みです。

以 上